



2014 **10** October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

人懐こいと言ってレオンさんが抱き上げた猫はゴロゴロと喉を鳴らし機嫌がよさそう。それを見ていると自然と頬も緩む。「ふふふ、この子ちょっとレオンさんに似てますね。柔らかい毛並みがレオンさんの耳とおなじです」

「……耳限定か」

「そうですね、あとはあんまり……レオンさんこんなに可愛くないし」

悪戯っぽく言うレオンさんはムツとして、けれどすぐに何かを思いついたらしく口元に弧を描く。

「まったく、俺の恋人はつれないな。その点お前は素直で可愛い」「なっ!？」

まるで見せつけるように猫にキスをし、優しく微笑みかけるレオンさん。

二人で楽しそうにしているのを見ていたら、ついムツとして言い返してしまった。

「もう!なんですかそれ、私が素直じゃないみたいじゃないですか!」

「そんな事は言っていないさ。——まあ、素直じゃなくてもアンタが一番可愛いことには変わりはないがな」

「……」

上目づかいで微笑み返されて、不覚にもその言葉が嬉しくて、そういう所が癪いですと言って二人で笑いあった。

そんな私達を見ていた猫も、満足そうにみゃあ、と鳴いた。

Illustration：森田もち吉 SSS：さな